

令和6年度 特色ある道徳教育推進校

東庄町立東庄中学校

研究主題

「伝え合う力」を育むための指導の工夫 ～ICT を効果的に活用した授業実践～

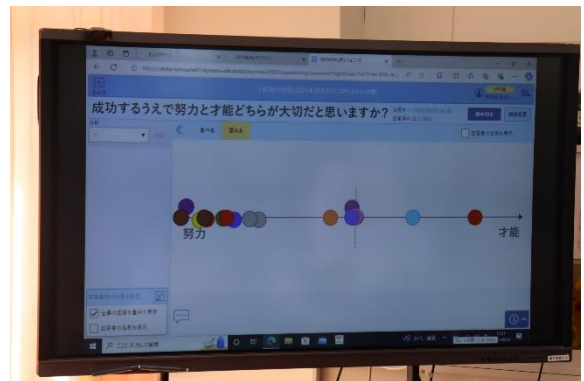
取組 1 授業方法の工夫

工夫 1 ICT 機器（タブレット端末）

多面的な物事の見方につなげるためには、多くの生徒の意見を共有することが必要である。普段は発表しない生徒の意見を閲覧したり、道徳的な判断や考えを視覚化して理解を深めたりするために ICT 機器の活用を進めた。



ホワイトボードを活用した意見の共有



ポジショニングを活用した考えの視覚化

工夫 2 教材の事前読みの実施

朝学習などの時間を活用して教材の事前読みを実施した。授業前に教材を読み込んでおくことで、教材への理解を早めることに加え、生徒の思考する時間や話し合いの時間を確保できるようにした。

取組 2 授業力向上のための取組

工夫 1 相互授業参観

互いに授業を参観する機会を設定し、授業力の向上を目指した。授業後には、教員間で生徒が物事を多面的・多角的に捉えられる発問について検証し合う場面が多く見られた。

工夫 2 ローテーション道徳

学年内で担当者を入れ換えてのローテーション道徳を実施した。学級担任だけでなく同学年所属の教師が授業を展開することにより、学校全体で道徳教育を通した生徒の道徳心を育むだけでなく、教師の教材のブラッシュアップにつなげた。

2 学年におけるローテーション道徳の実践例

	1 組	2 組	3 組
授業 ①	授業者：2 年副担任 「戦争を取材する」	授業者：1 組担任 「ネット将棋」	授業者：2 組担任 「美しい鳥取砂丘」
授業 ②	授業者：3 組担任 「ヨシト」	授業者：2 組担任 「美しい鳥取砂丘」	授業者：学年主任 「努力の大切さ」
授業 ③	授業者：2 組担任 「ハイタッチがくれたもの」	授業者：2 年副担任 「戦争を取材する」	授業者：1 組担任 「ネット将棋」
授業 ④	授業者：2 組担任 「美しい鳥取砂丘」	授業者：3 組担任 「ヨシト」	授業者：2 年副担任 「戦争を取材する」

工夫 3 外部講師を招いた研修

学校全体での授業力向上を目指して外部講師を招いた研修を行い、「考え、議論する道徳」や ICT を活用した授業づくり、道徳科における評価方法、最先端の情報や有用な教材の紹介・指導法について講話をいただいた。



主な成果と課題

- ICT の活用や事前読みでの活動時間の確保により、考えを言語化する機会や、考えの視覚化や話し合いの工夫をすることができ、生徒の考えを引き出すことができた。
- ローテーション道徳や相互授業参観、校内研修を通して、授業改善のヒントを多く見つけることができた。また、授業の振り返りや改善を図る機会を得ることができた。
- 他者の考えと比較したり、伝え合う力を育んだりするという点で課題が残った。課題解決に向けて ICT の活用や話し合いの場の工夫を継続的に進めていく。
- 今後は、教師・生徒の両方が自身の考えを認知するために効果的な方法について学ぶ必要がある。

授業実践事例

第2 学年 2 組 特別の教科 道徳学習指導案

- 1 主題名 私たちでつくる校風 C—（1 5）よりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 主題設定と理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

生徒たちにとって学校は、身近で公的な集団生活の場である。生徒は、その集団生

活の中で、互いに深く関わり合って相互理解を深め、協力し合って生活していくことで成長を遂げていく。その集団生活を向上させるためには、各自がその一員としての役割と責任を自覚して、主体的に行動できることが求められる。また、自分が所属する集団のみに関心を寄せ、自分たちの利益のみを追求し、自分とのかかわりの薄いと思われる集団や成員に対して無関心になっていないか省みることも必要である。利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活を向上に努める態度を育てることでねらいに迫りたい。

(2) 指導観

主人公の心情に寄り添い、心情の変化をグラフで視覚的に捉え、「集団生活を充実するために自分は何ができるか」ということについて考えを深めていきたい。また、Microsoft の Whiteboard を活用してクラス全体の円滑な意見共有を図りたい。

主人公のいじめをなくしたいという強い思いや生徒会長としての責任感、誰からも賛同を得られなかった悔しさに共感し、問い返しや補助発問などから多面的・多角的によりよい集団づくりについて深く考えさせることが重要である。「これから学校生活をよりよくするために自分にできそうなことは、何があるだろうか。」と考えることで、より自分事として捉えて、集団生活の充実を図ろうとする実践意欲を育てる。

3 本時の指導

(1) ねらい

- ・裕司の心情を考えることを通して、集団で協力し合う大切さに気づき、集団生活をよりよくしようとする態度を育てる。

(2) 展開

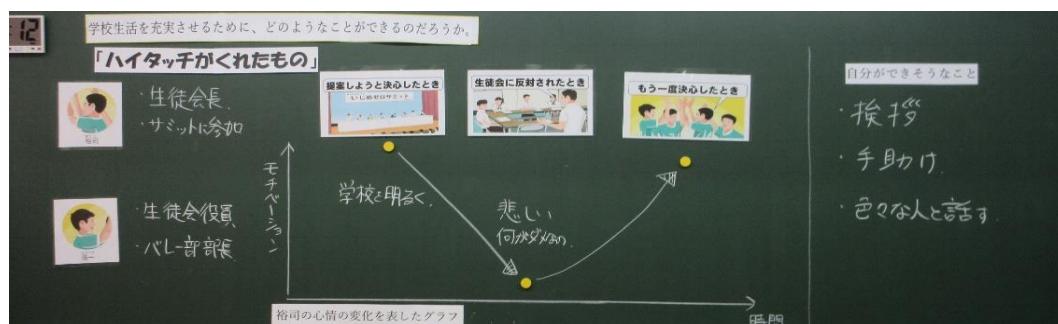
※特別な支援を要する生徒への対応

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される生徒の反応	指導・支援 ○評価の視点	資料
導入	3	1 道徳的価値に対する方向付け ・アンケートの結果を提示して、現状について考える。 ・学習テーマを提示する。	・アンケートの結果から、「学校生活の充実」に向けて興味をもたせる。	電子黒板
		学校生活を充実させるために、どのようなことができるのだ		
展開	5	2 教材の提示 ・あらすじを確認する。	・事前に教材を読ませておく。 ・PowerPoint で登場人物の関係とあらすじを確認する。	PowerPoint
	37	3 教材についての話し合い ・裕司の心情を追いながら、心情の変化を捉える。	・裕司の心情に着目し、集団生活をよりよくするために必要なことを考えさせる。	タブレット
	(6)	○裕司はどういう思いで、ハイタッチを提案したのだろうか。 ・集団生活をよりよくしたいという裕司の心情を捉える。 (予想される生徒の反応) ・皆の雰囲気をもくしたい。 ・生徒会長として学校をよりよくしたい。	・生徒会長である裕司の立場やどういう思いがあるのか考えさせる。 ・今までで同じような経験がないか問いかけ、自分事として捉えて共感させる。	タブレット
	(6)	○誰も賛成してくれなかったとき、裕司はどんな気持ちになっただろうか。 ・裕司の気持ちのモチベーションをグラフで掲示して、視覚	・グラフを黒板に掲示して、裕司の心情の変化を視覚化し	タブレット

展開	(15)	的に捉える。 • Whiteboard に班の意見を書き込んだ後全体で共有を行う。(予想される生徒の反応) • なぜ賛成してくれないんだ。 • みんなは学校をよりよくしたいと思っていないのか。 ◎裕司がもう一度ハイタッチを提案しようと決心できたのは、どんな思いからだろうか。 • 学校をよりよくしたいと考えたきっかけを考える。 • 班で意見を共有し、発表する。(予想される生徒の反応) • 部活動でハイタッチの効果がわかったから。 • 元気をもらえたから。	て考えやすくする。 • Whiteboard を活用して班や全体での意見共有を図る。 ※意見が出てこない生徒に対して、他の人を参考にしながら、意見を考えるよう促す。 • 個人での意見はワークシートに記入し、班で共有する。 ※全体で共有する前にグループでの共有を行うことで、自分の意見がまとまらない生徒が他の人の意見を聞いて考えやすくする。	ワークシート
	(10)	○これから学校生活をよりよくするために自分にできそうなことは、何があるだろうか。 • Whiteboard に考えを書く。 • 発表した意見をまとめて、本時の振り返りにつなげる。(予想される生徒の反応) • 周りへの呼びかけ。 • 自分から行動する。	• 自発的に意見を考えさせるため、個人でしっかり考える時間をとる。 ○集団生活を充実させるために、自分には何ができるか考えようとしている。	タブレット
終末	5	4 本時の振り返り • 学習を通して、考えたことや課題についてワークシートに書き込む。	○道徳的価値の理解について、自身との関わりで深めているか、学習状況を見取る。	ワークシート

4 授業の様子

(1) 板書



(2) 授業後の生徒の振り返り

- 裕司の行動を通して、学校生活を充実させるために挨拶や呼びかけなど、自分がこれからできそうなことを考えることができた。
- 学校生活をよくしたいとは思っていたが、行動を起こすことはできていなかったの
で、これからは小さなことから行動に移していきたいと思った。
- 授業を通して、周りの協力や仲間の大切さを改めて感じる事ができた。